

インドネシアのゴミ問題

インドネシアでは以前から、ゴミ問題が社会問題となっています。約2億5千万人の人口を有するインドネシアですが、そのうち海沿いの地域に住む人口が約1億8千7百万人います。正しく処理されていないプラスチックゴミが、毎年、約322万トン排出されており、うち48万トンから129万トンは海へと流れ出て、汚染しているという推測もあります。海を汚染するゴミを最も多く排出する国として、インドネシアは中国に次ぎ、世界第2位です。海沿いの地域に住む人口は、インドの1億8千7百万人とほとんど変わらないにも関わらず、インドの海へのゴミの排出量は年間9万トン～24万トンとなっており、世界12位です。つまりこれは、インドネシアでのゴミの処分システムが確立されていない、もしくは遅れているということに他なりません。

現地のメディアによると、原因の一つとして挙げられるのは、飲料産業の急速な発達だそうです。この飲料産業の発達は、プラスチックゴミの増加に直結しています。

現状、インドネシアにおけるプラスチックゴミの加工処理能力は極めて乏しいと言わざるを得ません。そのため政府はプラスチックゴミの削減に向けて、いくつかの対応策を設けました。

1. 国民へのゴミ削減の呼びかけ

ジャカルタ特別州は市民へゴミの削減を呼びかけています。

方法としては、①プラスチック袋の持参、②タンブラーの持参、③食器の持参、④エコバックの利用の推奨などが挙げられます。

2. 条例の制定

州の条例としてジャカルタの主だった店では、使い捨てのプラスチック袋を提供している店に対しては、罰金（最高で約20万円）を科すと決めました。また使い捨てプラスチックを提供していない店に対しては州知事の政策を推進したことになり、インセンティブが与えられるようです。

このルール of 制定により、ショッピングセンターではプラスチックの袋が準備されず、買い物をする人々が望む、望まないに関わらず袋を持参しなければならなくなったのです。これらの試みでプラスチックゴミの削減を円滑に進めることができると期待されています。

その他にも政府はプラスチックゴミから製品を作る工場の建設に力を入れています。それにより雇用の促進も期待されています。プラスチックゴミを再利用することにより、人々の生活に有効活用できる製品へと再利用することができるのです。例として、スラバヤでは、プラスチックゴミを再利用したペンキのボトルや植木鉢、ガルトでは、カバン、プレスレット、指輪、本棚、財布、筆箱など様々な日用品として再利用されています。



エコバック Rp.19,000

しかしながら、分別できるよう経営側がゴミ箱を準備していても、元々分別という習慣が無かったインドネシアにおいて、人々の習慣を改善するのは非常に難しいと言わざるを得ません。

今後もインドネシアでは、ゴミの処理がより深刻な社会問題となっていくでしょう。

環境への影響、人体への影響も考え、ゴミの排出を最小限に留める努力をすることが望まれます。リサイクルにおける現状は、理想とはまだまだほど遠いのです。

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク（PT. JC内）概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 46

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,

Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT. JC 武井 和宏（たけい かずひろ）

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託）。ご利用に当たっては、[「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。